

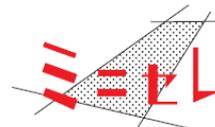


公益財団法人愛知県文化振興事業団

2022年3月11日(金)
愛知県芸術劇場
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報・マーケティンググループ
☎ 052-955-5506

<Press Release>

報道各位



愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohamaによる 新たなプロジェクトが始動

「DaBYダンスプロジェクト 鈴木竜×大巻伸嗣『Rain』」 製作発表とオーディション開催について



©Takayuki Abe



©Kenji Azumi



© paul barbera / where they create

DaBY アソシエイトコレオグラファー
鈴木 竜

新国立劇場バレエ団 プリンシパル
米沢 唯

現代美術作家
大巻 伸嗣

お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

広報・マーケティンググループ(武石) 企画制作グループ(唐津)

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 Tel 052-955-5506 Fax 052-971-5541

E-mail: pr@aaf.or.jp WEB: <https://www-stage.aac.pref.aichi.jp>

2022.3.11

Dance Base Yokohama



2023年3月11日(土)～12日(日)に
愛知県芸術劇場で DaBY ダンスプロジェクト 鈴木竜×大巻伸嗣『Rain』を発表
バレエダンサーの米沢唯が出演
～出演ダンサー募集につき、DaBY 登録ダンサーオーディションを開催～

この度、Dance Base Yokohama によるダンスプロジェクトとして、DaBY アソシエイトコレオグラファーの鈴木竜と現代美術作家の大巻伸嗣がタッグを組んで、サマセット・モームによる短編小説『雨』から着想を得た新作『Rain』の創作に挑みます。出演者に、新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯が決定しています。

本プロジェクトは、2021年12月に上演した「鈴木竜トリプルビル」に続き、DaBY と愛知県芸術劇場の連携プロジェクトの第2弾として、2023年3月に愛知県芸術劇場 小ホールにて初演を迎えます。

現在、本作の創作に参加するダンサーを募集しています。クリエイションは年間を通して行うため、出演者には2022年度より活動を開始する「DaBY 登録ダンサー」となっていただくことを前提としています。現在オーディションへの参加申込を受付中ですが、本発表に伴い書類申込み締切日を2022年3月21日(月・祝)まで延長します。詳細は、次ページのオーディション情報をご覧ください。

公演情報

日程	2023年3月11日(土)、12日(日) 時間未定
会場	愛知県芸術劇場 小ホール 愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2 B1 (愛知芸術文化センター内)
料金	未定
主催	愛知県芸術劇場、Dance Base Yokohama

愛知県芸術劇場



STAFF

プロデューサー：唐津絵理 (愛知県芸術劇場/Dance Base Yokohama)
マネージングディレクター：勝見博光 (Dance Base Yokohama)
プロダクションマネージャー：世古口善徳 (愛知県芸術劇場)
照明デザイン：高田政義 (RYU)
照明施工・オペレート：上田剛 (RYU)
ドラマトゥルク：丹羽青人 (Dance Base Yokohama)
制作：田中希 (Dance Base Yokohama)

〈登録ダンサーオーディション募集概要〉

日	程	2022年3月26日(土)
会	場	Dance Base Yokohama 神奈川県横浜市中区北仲通 5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE BRICK North 3 階
申	込	書類審査締切：2022年3月21日(月・祝) 実地審査：2022年3月26日(土)
詳	細	下記に掲載された申込フォームより必要情報を記入のうえ、ご応募ください。 https://dancebase.yokohama/info/5447

Dance Base Yokohama

ダンスを中心とするパフォーマンスアーツ作品の創作を目的に、地域や文化芸術を愛する方のために開かれたダンスハウスとして2020年6月横浜を拠点に設立された。ワークショップや実験的なトライアウト公演の企画・運営、海外アーティストやカンパニー招聘、ダンスアーカイブ事業などを行い、振付家やダンサーのみならず、さまざまな分野のクリエイター、批評家、研究者、プロダクションスタッフ、そして観客の交流拠点をめざしている。

アーティストックディレクターを唐津絵理(愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー)が務め、ダンス、パフォーマンスアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等を展開する。

2020年「ダンスを社会にひらく」コンセプトが評価され、グッドデザイン賞受賞。2021年ロゴマークが東京TDC賞2021に入選。

PROFILE



©Takayuki Abe

【振付】鈴木竜 Ryū Suzuki

Dance Base Yokohama アソシエイトコレオグラファー。横浜に生まれ、英国ランベール・スクールで学ぶ。これまでにアクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ、フィリップ・デュクフレ、インバル・ピント/アブシャロム・ポラック、エラ・ホチルド、平山素子、近藤良平、小尻健太など国内外の作家による作品に多数出演。振付家としても横浜ダンスコレクション 2017 コンペティション I で「若手振付家のためのフランス大使館賞」などを史上初のトリプル受賞するなど大きな注目を集めており、作品は国内外で多数上演されている。

DaBY では、2020 年度には DaBY コレクティブダンスプロジェクトに取り組む。また 2021 年に『When will we ever learn?』『never thought it would』『Proxy』を創作し、愛知県芸術劇場にて初演、KAAT 神奈川芸術劇場にて再演。2022 年度には国内外での再演を予定している。



©paul barbera / where they create

【美術】大巻伸嗣 Shinji Ohmaki

岐阜県出身。「存在」とは何かをテーマに制作活動を展開する。環境や他者といった外界と、記憶や意識などの内界、その境界である身体の関係性を探り、三者の間で揺れ動く、曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るための身体的時空間の創出を試みる。

主な個展に、「存在のざわめき」(関渡美術館/台北,2020)、「まなざしのゆくえ」(ちひろ美術館,2018)、「Liminal Air Fluctuation - existence」(Hermès セーヴル店/パリ,2015)、「MOMENT AND ETERNITY」(Third Floor-Hermès/シンガポール,2012)、「存在の証明」(箱根彫刻の森美術館,2012)、「ECHOES - INFINITY」(資生堂ギャラリー,2005)。あいちトリエンナーレ(2016)、越後妻有アートトリエンナーレ(2014~)、アジアパシフィックトリエンナーレ(2009)、横浜トリエンナーレ(2008)などの国際展にも多数参加。近年は、「freeplus × HEBE × ShinjiOhmaki」(興業太古匯/上海,2019)、横浜ダンスコレクション「Futuristic Space」(横浜赤レンガ倉庫,2019)、「Louis Vuitton 2016-17 FW PARIS MEN'S COLLECTION」(アンドレシトロエン公園/パリ,2016)などでも作品を発表する。



©Kenji Azumi

【出演】米沢唯 Yui Yonezawa

愛知県出身。2010 年にソリストとして新国立劇場バレエ団に入団。

2011 年ビントレー『パゴダの王子』で主役デビュー。2013 年プリンシパルに昇格。2004 年ヴァルナ国際バレエコンクールジュニア部門金賞、2006 年ジャクソン国際バレエコンクールシニア部門銅賞など。2014 年中川鋭之助賞、2017 年芸術選奨文部科学大臣新人賞、2018 年舞踊批評家協会新人賞、2019 年愛知県芸術文化選奨文化賞、2020 年芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子賞優秀賞受賞。愛知県芸術劇場の自主事業にも多数参加している。うち、劇場プロデュース作品としては、2004 年ダンスオペラ 2 『青ひげ公の城』、『戸外にて』(振付:アレッシオ・シルヴェストリン)、2005 年ダンスオペラ 3 『UZME』(振付:笠井勲)、2005 年「あいちダンスフェスティバル」にて大島早紀子作品『ユークロニア』にクリエイションから参加して、初演に出演している。